

# 秋田の土地改良

## 新年号

2013.JAN



▲特大絵馬（秋田市・総社神社）

被災地の一日も早い復興を、お祈り申し上げます。



## がんばれ東北! がんばろうニッポン!!

目次

新年のごあいさつ(水土里ネット秋田会長 高貝久遠)……………	2	第2回秋田県土地改良区統合整備検討委員会……………	11
年頭のごあいさつ(秋田県知事 佐竹敬久)……………	3	平成24年度換地計画事務研修……………	11
新年のごあいさつ(秋田県議会議長 大里祐一)……………	4	水土里情報システムによる果樹園地データベース構築の取り組み……………	12
新年のごあいさつ(秋田県農林水産部長 藤井英雄)……………	5	大潟土地改良区創立40周年記念式典、県内事業竣工……………	14
平成24年度秋田県土地改良事業推進大会……………	6	第2回秋田県地域伝統芸能大会、平成24年秋の叙勲受賞者……………	15
第35回全国土地改良大会沖縄大会……………	8	農業農村整備フェア、2012語り部交流会 in あきた……………	16
「第15回全国農業担い手サミット in あきた」開催される……………	8	会員だより、連合会日誌……………	17
要請活動(東北・北海道土地連連絡協議会)……………	9	施設賠償保険・団体傷害保険のお知らせ……………	18
平成24年度土地改良関係団体役員講習会(開催報告)……………	10	謹賀新年あいさつ……………	18



●発行所 秋田県土地改良事業団体連合会 〒010-0967 秋田市高陽幸町3番37号  
 TEL 018-888-2750(代) FAX 018-888-2834  
<http://homepage2.nifty.com/akidoren/>





## 新年のごあいさつ

秋田県土地改良事業団体連合会  
(水土里ネット秋田)

会長 高 貝 久 遠

明けましておめでとうございます。

皆様には健やかに輝かしい平成25年の新春を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。また、平素から農業農村整備事業の推進並びに本会の業務運営に、ご理解とご協力を頂いておりますことに、深く感謝申し上げます。

昨冬は、「平成18年豪雪」に匹敵する積雪があり、春先には、「爆弾低気圧」による台風並の強風に襲われ、夏は、勢力の強い太平洋高気圧の張り出しによる猛暑日が続いて、まさに、自然の猛威を実感させられるものでありました。しかしながら、秋は好天に恵まれ、本県の稲の作況指数も100の「平年並み」まで回復するとともに、本県産米が、需要拡大によって価格が上昇し、会員の皆様は、安堵の秋を迎えられたと存じます。

さて、本県の基幹産業である農業は、先人達によって切り拓かれ、保全されてきた、雄物川、米代川、子吉川の三大河川の流域盆地や海岸平野に展開する、広大で肥沃な美田を中心として営まれており、国民の生命を育む食料の安定生産に大きく寄与してきました。

しかし、本県農業・農村が今後とも持続的に発展し、我が国の食料自給力の向上に一層貢献していくためには、これら優良農地や農業水利施設の整備を継続的かつ安定的に実施する必要があり、師走26日に発足した第2次安倍内閣

には、先の政権政党によって大幅減額された農業農村整備関係予算の復活が、大いに期待される所であります。

また、聖域なき関税撤廃を原則とするTPP協定は、従来の米単作から、大区画ほ場整備事業等の推進による、土地利用型農業への変革に果敢に取り組んでいる、本県農業・農村においては地域社会の崩壊につながるものであり、安倍内閣、与党には、国民的議論を経た、慎重な対応を求めるものであります。

本会としましては、会員各位、全国の水土里ネットの仲間との結束力により、関係予算の復活に傾注して参ることは無論、TPP問題に関しましても、農業を始めとする国益を守るため、県内、国内各種団体との連携により、的確に対処して参りたいと存じますので、会員皆様の格段のご理解、ご協力をお願い致します。

新しい年の幕開けに際し、皆様に親しまれ、信頼される水土里ネット秋田を念頭に、更なる技術力・指導力の向上と、自己改革による組織基盤強化に努める所存であります。各水土里ネット、各市町村の会員を始め、関係各位におかれましては、本会の運営等に対しまして、更なる、ご支援、ご協力を下さいますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念して、新年のご挨拶と致します。



## 年頭のごあいさつ

秋田県知事

佐竹 敬久

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかな新春をお迎えることと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、県内では、皇太子殿下のご臨席の下「第23回全国『みどりの愛護』のつどい」と「第15回全国農業担い手サミット・イン・あきた」が開催されたほか、秋田市中通の「エリアなかいち」のオープン、日本海沿岸東北自動車道「金浦・仁賀保」間の開通、全国和牛能力共進会での本県産和牛の優等二席など、秋田を元気にするニュースが多く、大変嬉しく感じております。

一方、政治・経済の分野では、東日本大震災からの復興を目的とした復興庁の発足や、再生可能エネルギー固定価格買取制度のスタート、社会保障と税の一体改革関連法の成立、そして年末の衆議院議員総選挙の結果を受けた政権交代など、これからの国の姿に大きな影響を与える動きのあった1年となりました。

今年は、県政の運営指針である「ふるさと秋田元気創造プラン」の最終年度にあたり、これまでの取組の総仕上げの年となりますが、まずは、喫緊の課題である本県経済雇用情勢への対応を最優先に、金融対策、雇用対策、消費の downstream 事業など、総合的で切れ目のない経済雇用対策を引き続き展開するとともに、次世代自動車関連産業、新エネルギー関連産業、資源リサ

イクル産業などの成長分野への参入促進や、新たな農業・農村政策、少子化対策、総合戦略産業としての観光の振興などに重点的に取り組んでまいります。

農業農村整備の分野におきましては、戦略作物の生産拡大や担い手への農地集積等と一体となったほ場整備を県の重点施策として、今後も着実に推進していくとともに、老朽化した農業水利施設の更新整備を進め、災害に強い安全安心な農村社会の形成を図ってまいります。

本県の農山村の豊かな自然環境や美しい景観は、かけがえのない県民共有の財産であり、これまで水土里ネットは、その基盤となる農地や農業用水等の維持・保全において中心的な役割を担ってこられました。今後も農地等の多面的機能が持続的に発揮され、元気で活力ある農業農村が次世代に継承されるよう、水土里ネットをはじめとした関係団体と、国、県、市町村が、適切な役割分担と一層の連携を図りながら、農業農村整備事業の推進はもとより、地域と一体となった農村環境の保全活動を充実させていきたいと考えております。

結びに、新しい年が水土里ネット会員の皆様にとって希望に満ちあふれた飛躍の年でありませうご祈念申し上げます、年頭のごあいさつといたします。



## 新年のごあいさつ

秋田県議会議長

大里 祐一

新年明けましておめでとうございます。

水土里ネット会員の皆様には、日頃から農業の基礎的資源であります農地・農業用水とともに農村環境などの良好な保全を通じ、本県農業・農村の振興と活性化に御貢献いただいておりますことに、県議会を代表しまして心から敬意と感謝を申し上げます。

昨年は、皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、全国各地から多くの方々をお迎えし、「第15回全国農業担い手サミット in あきた」が盛会に開催されました。本大会で、「あきたこまち」に代表される秋田米や、野菜、果樹、花き、畜産など、秋田の多様な作目を全国にアピールし、地域交流会を通じて、担い手自らの経営や活動を語り合うことで、様々な困難や課題を克服していく機運が高められたことは、誠に喜ばしい限りであり、関係の皆様にも心から感謝を申し上げます。

さて、昨年の本県農業を顧みますと、4月早々の暴風被害に加え、夏場の記録的な高温少雨により、米の作柄低下が心配されましたが、農家の皆様の御努力はもとより、農業用水の確保など、土地改良区の皆様の御努力もあり、作況指数が100と平年並みの作柄が確保されました。一方、米の取引価格は、東日本大震災以降の需給逼迫により、平成23年産米の市中相場の高騰を受け、24年産米の取引では、一昨年以上の高値でスタートしました。

また、25年産米の生産数量目標が11月に農林水産省から発表され、国全体で目標数量を減らしている(0.3%減)なか、本県分は24年産米に引き続き増加(0.6%増)となりました。

水土里ネット会員の皆様には、これまで本県農業・農村づくりの一翼を担い、社会の共通資本であります農地・農業用水の資源と環境の保全に取り組まれ、優良な農地の確保とその有効活用に御貢献いただいておりますが、今後とも、本県農業の更なる進展に向けて、これまで培ってきた英知を遺憾なく発揮され、なお一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

県議会といたしましても、県民が心から誇りに思える郷土秋田を、子や孫の世代に引き継ぐために、皆様とともに、本県農業が持続的に発展する各種施策の着実な推進に向け、努力を重ねてまいる所存であります。

終わりに、本年が水土里ネット会員の皆様にとりまして、より良い飛躍の年となりますことを御祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。



## 新年のごあいさつ

秋田県農林水産部長

藤井 英雄

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

水土里ネット会員の皆様におかれましては、日ごろから農林水産行政、とりわけ農業農村整備事業の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、雪解けの遅れや春先の暴風被害に加え、局地的な大雨や記録的な高温小雨など大変厳しい生産条件でありましたが、米の作況指数については100と平年並みの作柄を確保することが出来ました。農家の皆様はもとより、夏場の用水確保などにご尽力された土地改良区の皆様に心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から早二年が経過しようとしておりますが、被災地では今なお復旧・復興に向けた懸命な努力が続けられております。県でも土地改良の技術職員を被災地に派遣し、農地や農業施設等の復旧支援を継続して行っておりますが、復旧工事が本格化する来年度には派遣職員を増員するなど、同じ東北の一員として出来る限りの支援を行ってまいります。

皆様ご承知のとおり、県では100億円の「農林漁業振興臨時対策基金」を平成23年度に設置し、将来を担う人づくりや生産性の高い基盤作りなど、農林漁業の体質強化・構造改革の加速化に向けた取組を支援しております。

とりわけ本県は、耕地面積の約9割を占める水田を有効に活用し、米以外の作物の生産拡大

と、冬季農業や加工を組み合わせた周年供給できる経営体や産地の育成が急務であり、これらの基盤となるほ場整備をはじめモミガラ補助渠等の排水強化対策を重点的に推進しているところであります。

徐々にではありますが、100ヘクタールを越える大規模経営やエダマメ日本一への挑戦、ネギやアスパラガス等の戦略作物の生産拡大など、各地で意欲的な取組が広がってきております。こうした新しい芽を大きく育てるため、戦略作物の産地化に必要な取組をさらに強化をしてまいります。

また、近年ゲリラ豪雨等による異常気象の頻発により、農村地域における防災面の強化が益々重要となってきております。農業水利施設の保全やため池等の防災・減災についても、耐震性や安全性を把握し、適切な管理や必要な整備を実施することで災害の未然防止を図ってまいります。

県農業の根底を支える農業生産基盤の構築と土地改良施設の防災対策を推進していくためには、農業農村整備の着実な実施が不可欠であり、今後とも中・長期的な視点に立った予算の確保に努めてまいります。

最後になりますが、本年が水土里ネット会員の皆様にとりまして、また本県の農林水産業にとっても更なる飛躍の年となりますことを願うとともに、皆様の益々の御健勝と御発展をご祈念申し上げまして、新年の挨拶といたします。

—— 平成24年度秋田県土地改良事業推進大会 ——  
**農業農村整備事業予算の大幅復活に向けて**



11月2日(金)、第134回秋田県種苗交換会の協賛行事として、本会主催による「平成24年度秋田県土地改良事業推進大会」が、能代市文化会館で会員及び関係者など約1,150名が参加し、来賓として藤井英雄県農林水産部長(佐竹知事代理)、齊藤滋宣能代市長、金田勝年衆議院議員ほか関係者各位がご臨席のもと開催された。

大会では、高貝会長が「国は、去る3月、新たな土地改良長期計画を閣議決定し、農地の大区画化・汎用化による農業の体質強化などに向けた様々な施策を展開することとしているが、9月に公表された来年度予算概算要求額では、生産基盤整備の効果的かつ継続的な実施が困難であり、大幅な復活を果たすための行動を継続していく。さらに、本県の農業などに悪影響を与えるTPPについては、断固阻止に向けた強力な運動を繰り広げる必要がある、皆様からの尚一層のご理解・ご支援をお願いしたい」と挨拶した。

次に、土地改良功績者表彰、21世紀土地改良区創造運動表彰、来賓祝辞の後、県当局による「秋田県農業農村整備事業の現状報告」に続いて、「TPPへの参加は、強い決意をもって反対する。農業・農村の整備を、国の重要施策として必要な予算を確保すること」などの大会決議を満場一致で採択し、閉会した。



なお、今回表彰された、団体、個人は、次のとおりである。

● **土地改良功績者表彰**

- 【知事表彰】<団体>南秋田郡真崎堰土地改良区(理事長:加藤孝一郎)、戸村土地改良区(理事長:須田誠)  
 <個人>藤井弘道(秋田県南旭川水系土地改良区理事長)、真壁末治郎(潟上市天王土地改良区理事長)、近藤一彦(大潟土地改良区事務局長)
- 【会長表彰】田中正夫(米代川筋土地改良区連合理事)、石井進(雄和中央土地改良区理事)、加藤正孝(大仙市協和小種土地改良区理事長)、高橋登(秋田県南旭川水系土地改良区理事)、大坂芳市(雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区理事長)

● **21世紀土地改良区創造運動表彰**

- 【東北地方奨励賞】仁井田堰土地改良区(水土里ネット仁井田堰) 理事長:伊藤作一郎  
 【知事表彰】秋田県能代地区土地改良区(水土里ネット能代地区) 理事長:今野清孝  
 【奨励賞】秋田県雄物川筋土地改良区(水土里ネット雄物川筋) 理事長:柴田康二郎  
 【特別賞】秋田県土地改良事業団体連合会鹿角支部(水土里ネット鹿角支部) 支部長:田口信一

## 大 会 決 議

我々水土里ネットは、永年にわたる先人達の英知とたゆまぬ努力により、国民に安定的な食料供給を行うことをはじめ、豊かで安定した農業用水の確保、地域資源の保全等、多面的機能の発揮に寄与し、そして何よりも大切な地域の絆を築き、維持し、農業農村の発展に貢献してきた。しかし、経済活動が国際化する中、食料の6割を海外に依存する我が国の「食料危機」は、途上国の人口増加や、国内外に頻発する災害により、一層現実化している。

このような状況の中で、農業の基盤となる農地や農業用水は、未だ整備が進んでいない地域もあり、農地の集積や近代的な農業経営に支障を来している。また、すでに整備された地域においても、加速度的に老朽化が進み、早急に補修や更新の必要な施設が増加している。特に、重要な水利施設における機能低下が深刻化しており、防災・減災を含めた緊急な対策が必要となっている。

これらの対策に不可欠な農業農村整備事業の予算は、平成22年度に大幅な減額となり、以後、低い水準となっている。このような予算の下では、到底、健全な農業・農村を維持することは困難であり、特に地域農業の持続的発展について、危機的な状況となることは必至である。今後の安定した食料供給や、我が国の美しい農村を維持するには、農業農村整備の積極的な推進により、豊かな国土と、国民生活の安全安心の確保が重要である。このため、現下の農業・農村の現状を踏まえ、今後更なる窮状に進展しないよう、次の事項について、本大会の名において決議する。

記

1. 農業のみならず幅広い分野にわたり影響があるTPPへの参加は、強い決意をもって反対する
1. 農業生産の基盤である農業水利施設について、計画的な更新と適切な保管理を推進すること
1. 食料供給力の強化、農業の体質強化を図るため、農地集積を加速化するほ場の大区画化、汎用化等の農地整備を推進すること
1. 頻発する災害への対応力を強化し、安全・安心で快適な農村づくりと安住化を図るため、農地と農業用施設の防災・減災対策を推進すること
1. 小水力発電など、農村に豊富に賦存する再生可能エネルギーの有効活用を促進する対策を推進すること
1. これら政策推進に不可欠な農業・農村の整備を、国の重要施策として必要な予算を確保するとともに、所要の地方財政措置を講ずること

平成24年11月2日

秋田県土地改良事業推進大会

## 第35回全国土地改良大会(沖縄大会)

### 「水・土・里」の継承を誓う



▲野中広務 全土連会長

11月21日、沖縄県那覇市「奥武山総合運動場武道館」において、「第35回全国土地改良大会(沖縄大会)」が開催され、～水土里豊かな守禮の邦 美らさん真心 おーきな和～をテーマに、全国から約2,500名の土地改良関係者が参集した。

今回の全国土地改良大会は、沖縄の本土復帰40年の記念行事として位置付けられ、主催者挨拶で沖縄県土連の古謝会長は、農村が過疎化や高齢化、担い手不足などの課題に直面しているとし、「大会テーマである『おーきな和』をつくり、農村の再生に取り組もう」と呼びかけた。また、全土連の野中会長は「農業と農村は国の大本。食と農業、農村を守らなければならない。節目の年を迎えた沖縄で、課せられた使命の重大性に、決意を新たにしている」と述べた。

大会では、東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島県の農地再生の取り組みも報告され、「地域農業の再生に向け、農村の水、土、里を守り、引き継いでいく」などとする大会宣言が満場一致で採択された。

なお、「土地改良事業功績者表彰」では、本会理事である湯沢市中央土地改良区の由利傳理事長が、全土連会長表彰を受賞した。



▲古謝景春 沖縄土連会長

## 第15回 『全国農業担い手サミットinあきた』開催される



▲皇太子殿下

10月31日～11月1日の2日間に渡り、秋田県立武道館と秋田県内13地域に於いて、皇太子殿下をお招きし、「第15回全国農業担い手サミットinあきた」(実行委員会及び全国農業会議所主催)が、全国から約2,800名(本県関係約1,000名)の関係者が参加し、「ニッポンを耕そう! ユタカナ国へ」をテーマとして、盛大に開催された。

大会会長である佐竹秋田県知事は、主催者あいさつで、「本県は、約15万ヘクタールの広大で肥沃な耕地と、潤沢で清冽な水資源を有する立地条件に加え、気温の日較差が大きく、台風などの自然災害が少ない恵まれた気象条件を背景に、日本有数の『米どころ』として、稲作を基幹に

複合農業を展開する食料自給率全国第2位の農業県である。しかし、近年の農業を取り巻く情勢は、担い手の減少や高齢化といった課題に直面する一方で、世界的な人口増加等による食料需給の逼迫の懸念や、地球規模での異常気象など食料生産の阻害要因も多くなっており、安全・安心な食料の安定供給に対する国民の期待は益々大きくなっている。こうした中、大企業が植物工場を導入して農業に参入する新たな動きが見られるなど、農業はまさに成長産業となり得る分野である」などと述べられた。



▲佐竹知事



続いて、皇太子殿下から、おことばをいただき、今サミットが東日本大震災後初めて東北で開催されることに触れ、「知識や技術を交換し合い、農業のあるべき姿を探求していくことは、日本の農業はもとより、被災地の復興においても意義深い」と述べられた。

**10月31日(水)**

○全体会 秋田市:秋田県立武道館

平成24年度全国優良経営体表彰・表彰式、同審査講評、平成24年度全国優良経営体表彰農林水産大臣賞受賞者基調報告、パネルトーク(プロローグ)、パネルトーク～再生・復興、そして未来へ～、サミット宣言…実行委員会伊藤副委員長、次期開催県引継式…石川県、閉会のあいさつ…大会副会長全国農業会議所二田会長

○地域交流会 【情報交換会】 県下13地域・13会場

**11月1日(木)**

○地域交流会 【現地研修会】 全28コース

**東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会が  
農林水産大臣及び復興大臣等へ要請**

1. 平成25年度農業農村整備事業予算の必要額確保
2. 東日本大震災からの再生・復興

11月30日(金)に、東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会(会長:野上青森県土連会長)が、農林水産大臣及び復興大臣を始め、各関係者に対し要請活動を行い、本県から高員会長と黒子専務理事が参加した。

なお、要請活動は、農業農村整備事業予算が大幅削減された影響により、老朽化した農業水利施設の維持管理さえままならず、地域農家の期待に応えることが難しい状況にあり、また、東日本大震災から1年8ヶ月以上が経過した今も、農業生産現場では営農の再開が出来ずに苦慮している現実にあることから行われた。

**(要請項目)**

《農業農村整備事業等関係》

1. 農業の体質強化のための基盤整備予算の確保
2. 再生可能エネルギーの加速的な推進
3. 老朽化した農業水利施設の防災・減災対策
4. 水土里情報の活用拡大を図る支援措置
5. 「地域自主戦略交付金」並びに「農山漁村地域整備交付金」の交付額の増額
6. 環太平洋経済連携協定(TPP)参加反対

《東日本大震災関係》

1. 被災地の農業施策の着実な推進
2. 除染と一体となった農業農村整備事業の実施
3. 震災対策農業水利施設整備事業の予算確保
4. 被災土地改良区復興支援事業の拡充
5. 農家負担金の助成制度の拡充と創設
6. 東日本大震災復興交付金の拡充

# 平 24 年 度 土 地 改 良 関 係 団 体 役 職 員 講 習 会

## — 県内10会場で開催される —

本講習会は、国並びに県の指導のもと、本県土地改良関係団体役職員の資質向上の場として、半世紀に渡り受け継がれてきた事業であり、特に近年は、未収賦課金の回収等、土地改良区運営に関する問題の多様化・複雑化が顕著となっており、会員一層の研鑽の場として、或いは、会員相互の情報交換の場として継続されている。今年度は、11月8日鹿角、大館・北秋田支部を皮切りに、12月7日までの約1ヶ月間に渡り10会場で開催され、延べ862名の関係者が参加し盛会に終了することができた。

講習会は、全県共通テーマとして、「本県の農業農村整備事業の推進」について、秋田県農林水産部農地整備課からの講義があり、来年度の予算概算要求においても、平成22年度の大幅削減とほぼ同水準となっていることから、事業推進の必要性を訴えた。

また、土地改良法第132条検査についての、農林水産省における検査の視点、秋田県における検査体制、重点指導事項及び検査結果等の情報提供があり、本会からは、土地改良区の現状及び農地・水保全活動等について情報提供を行った。

各会場では、農政改革に対する対応や今後の地域振興活動の参考にしようとする参加者は、熱心に講義を聴き入っていた。

今年度の各会場での実施内容は次のとおりです。

### ■各支部の日程及び主な個別テーマ(敬称略)

鹿角、大館・北秋田(職員)	11月8日	農地法と農業経営基盤促進強化法との相違について	近藤換地設計事務所 土地改良換地士 近藤 久信
仙北(職員)	11月9日	仙北地域の農林業の推進について	仙北地域振興局 農林部長 足達 信廣
鹿角、大館・北秋田(役員)	11月14日	法人経営について ～農事組合法人 大里ファーム～	農事組合法人大里ファーム 副代表 浅石 昌敏
仙北(役員)	11月14日 ～15日	滞納処分について	木元法律事務所 弁護士 木元 慎一
山本(役職員)	11月15日	明るく生きること	能代市演劇活動家 今立 善子
平鹿(役職員)	11月16日	モットーは現場主義	(株)十文字リーディングカンパニー 代表取締役社長 小川 健吉
秋田(役員)	11月26日	土地改良区役員の役割について	秋田県農林水産部農地整備課土地改良指導班 主幹(兼)班長 松橋 正美
由利(役職員)	11月27日	由利本荘市の文人小島彼誰について	小島彼誰顕彰会 幹事長 鈴木 憲一
雄勝(役職員)	11月29日	地域の農業と農地を考える	こまち農業協同組合 代表理事組合長 岩井川光雄
秋田(職員)	12月7日	土地改良法第132条検査について (国の制度改正に伴う検査方針～管内検査状況について)	秋田地域振興局農林部農地整備課管理班 主事 酒井 明

## 第2回 秋田県土地改良区統合整備検討委員会が開催される

統合整備の推進により、土地改良区の一層の運営基盤の強化を図ることを目的に、統合整備に関する基本方針等を検討する、第2回秋田県土地改良区統合整備検討委員会が、11月30日(金)に秋田地方総合庁舎で開催された。

会議では、県内の全土地改良区を対象に実施された「土地改良区のあり方に関するアンケート」のとりまとめ結果や、県内13地区で開催された「地区別意見交換会」の実施状況についての報告などが行われ、それぞれの報告について、委員から意見やアドバイスがあった。

### 【主な意見・アドバイス】

- アンケートでは、未収賦課金が課題であるという回答が多いが、賦課金の額や職員数とも連動する問題であり、統合整備にも影響するため、その要因についてさらに掘り下げる必要があるのではないか。
- 合併のメリットだけでなく、デメリットについても、市町村合併や農協合併などを参考にとりまとめ、きちんと示したうえで、合併が必要な理由や将来展望について地域で話し合ってもらいたい。
- 今後の地域農業における土地改良区の役割を明確にするとともに、行政との関わり合いや連携については、農業の視点だけでなく、防災や水利用の面も含めて考えていくべき。
- 地区別意見交換会は、自分たちの地域、自分たちの土地改良区の将来を改めて考える貴重な機会であるため、今後も積極的に取り組んでほしい。

## 平成24年度

## 換地計画実務研修



12月12日(水)、秋田市の「秋田テルサ」を会場に、本会主催による「平成23年度換地計画実務研修」が開催され、県内で換地業務に係わる地区の県機関、市町村、土地改良区、換地委員会等の関係者約110名が参加した。

研修会は、事業実施中または今後予定している地区の換地委員等を主な対象とし、換地に関する基礎的知識や事業要件、換地委員等の果たす役割などについて研修するもので、「土地改良換地

等強化事業」の一環として毎年実施している。

本年度は、本会黒子専務理事の開講挨拶に始まり、本会農地整備部換地班の職員による「換地制度・換地手法について」、「換地計画書の構成について」、「換地清算金について」の講義に続き、秋田地方法務局登記部門の佐々木専門官による「筆界特定について」と題した研修などが行われた。

その後の「質疑応答」、「アンケート」では、様々な意見・要望が出され、今後の県内における換地事業の推進や本会換地業務等に反映させて頂きたいと考えている。



## 水土里情報システムによる果樹園地データベース構築の取り組み

秋田県平鹿地域振興局、水土里ネット秋田

### 取組概要

内容: 横手市内の果樹園地の位置情報や所有者、樹種などの情報を水土里情報システムを利用して県や市、JAなどの関係機関と情報共有を図るべく作業を進めている。

経緯: ①平成23年豪雪により横手市の多くの果樹園が被害を受けたが、地図情報が未整備であったため、被害状況の把握に苦慮した。

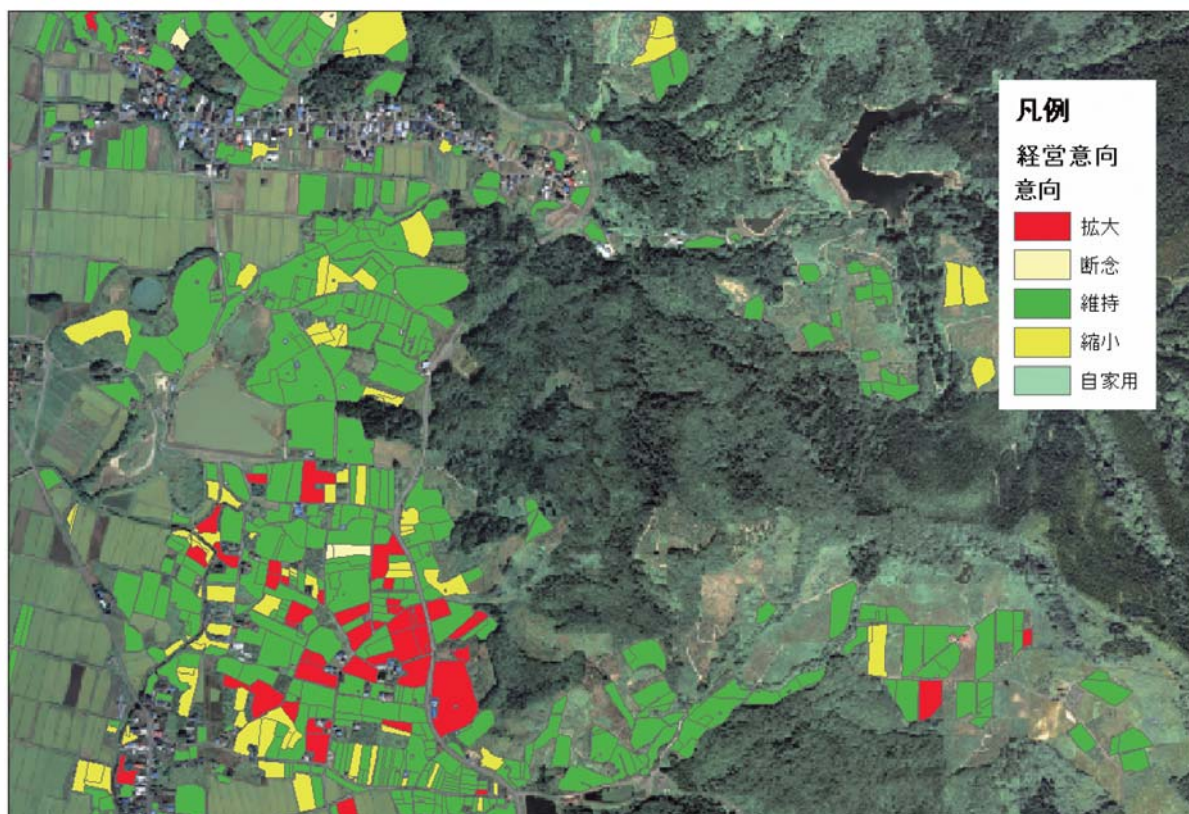
②平成23年7月よりモバイルGPS端末を用いて果樹園地境界の位置情報を測定するとともに、栽培している果物の種類や経営意向などをアンケート調査により農家から聞き取りデータを整備している。



果樹作付け状況の整理

## 期待される効果

- ①果樹のブランド化の推進や廃園地対策を検討する基礎データとして使用する。
- ②新規就農者への園地の照会や園地の集積、流動化に向けた計画のシミュレーションが容易に可能となる。



農家の経営意向状況を整理

## 今後の活用予定

現在整備している情報に加え、共同防除組織に係る情報を追加して、平成24年度中に水土里情報システムを利用して関係機関と情報共有する予定。

### ■お問い合わせ先

秋田県土地改良事業団体連合会(水土里情報センター室)

018-888-2732(直通)

## 大潟土地改良区

# 設立40周年記念式典



11月16日(金)、大潟土地改良区の設立40周年記念式典が、大潟村のサンルーラル大潟で、農林水産省東北農政局次長を始め、県、村、土地改良区の関係者など、約130名が出席して挙行された。

式典は、後藤理事長の式辞に続き、五十嵐東北農政局長(代読：山本東北農政局次長)を始め、高橋大潟村長等の来賓祝辞などと続いた。

また、黒瀬前大潟村長に、同土地改良区の発展への貢献に対する感謝状贈呈も行われ、式典は盛会裡のうちに終了した。

同土地改良区は、「世紀の大干拓事業」によって造成された「新生の大地」を受益地とする、我が国でも最大規模の土地改良区として昭和48年に設立され、以来、幾多の障害を乗り越えて「県営土地改良総合整備事業」、「県営排水対策特別事業」等を実施しながら、ほ場条件の改善と、水稻や畑作物の生産力向上に努めてきた。また、干拓事業後、半世紀近くがたち、経年劣化による老朽化が懸念される基幹水利施設についても、各種事業への取組により、更新整備や補修が進められており、今後とも「日本の食料基地」としての農業を根幹から支える組織として、一層の発展が期待されている。



## 事業竣工

### ■ 県営「銅屋地区」経営体育成基盤整備事業

10月20日(土)、県営「銅屋地区」経営体育成基盤整備事業の竣工式が秋田市相川(相川コミュニティーセンター)で、県や市、土地改良区、基盤整備組合の関係者など約50名が出席して行われた。

- ・事業期間 H16～H24      ・総事業費 1,990百万円
- ・事業量 区画整理A=179.9ha、暗渠排水A=178.2ha、農道整備20.9km
- ・負担団体 雄和中央土地改良区(理事長：伊藤錚悦)

### ■ 県営「左手子地区」農地集積加速化基盤整備事業

11月17日(土)、県営左手子地区農地集積加速化基盤整備事業の竣工式が秋田市雄和(ふるさと温泉ユアス)で、県や市、土地改良区の関係者など約50名が出席して行われた。

- ・事業期間 H18～H23      ・総事業費 590百万円
- ・事業量 区画整理・暗渠排水A=44.5ha、農道整備7.5km
- ・負担団体 左手子土地改良区(理事長：佐々木良英)

### ■ 県営「鶯野地区」農地集積加速化基盤整備事業

11月27日(火)、県営鶯野地区農地集積加速化基盤整備事業の竣工式が、大仙市(大曲エンパイヤホテル)で、県、市、土地改良区の関係者など約80名が出席して行われた。

- ・事業期間 H19～H24      ・総事業費 1,860百万円
- ・事業量 用排水路工91.9km、暗渠排水A=15.6ha
- ・負担団体 大仙市鶯野土地改良区(理事長：富岡弘)

## 第2回秋田県地域伝統芸能大会

—— 県内の伝統芸能が一堂に会して ——



第2回秋田県地域伝統芸能大会が、11月10日(土)～11日(日)の両日、大仙市中仙市民会館(ドンパル)で開かれた。

大会は、県内の伝統芸能を広く紹介し、次世代に保存継承していくための普及に努めるだけでなく、伝統文化を育んだ農村の歴史や先人の生き方を学ぶとともに、結いの精神の復活による農村振興の可能性について地域ぐるみで取り組むことにより、地域の活性化も

めざしていこうとする有志や愛好者でつくる実行委員会(実行委員長高橋康信)が主催し、仙北地域の2市1町の行政と教育委員会の協賛と、秋田県・秋田県教育委員会・水土里ネット秋田などの後援を得て開催され、2年目となった。

今年は、県内各地の神楽保存会のメンバーによる番楽・ささら・獅子舞や、民謡同好会による民謡・手踊りなどが披露され、客席から手拍子と盛んな拍手が送られていたほか、岩手県陸前高田市の方々との交流プログラムが設けられるなど、各地に根差した伝統芸能を通じての交流も深められた。

このような日々の伝承活動から、農村集落での世代を超えた人間の交わりが生まれ、地域コミュニティの絆の強化や地域農業の担い手づくりにもつながってきていることなど、伝統文化継承活動による様々な波及効果も紹介されていた。



### 「平成24年秋の叙勲」受章者発表

平成24年秋の叙勲受章者が、11月3日に発表されました。本会の関係者として次の方が受章されました。

加藤氏は、昭和53年に土地改良区の理事に就任、平成2年からは理事長として各種土地改良事業の推進や土地改良区の組織運営基盤の強化を図ってきたほか、平成4年からは旧協和町議会議員を4年間務め、さらには平成17年から大仙市農業委員として、広く地域農業の振興、発展に貢献していることが認められての受章となりました。誠にありがとうございます。



◆旭日単光章(土地改良事業功労)

加藤 久孝

- ・大仙市協和土地改良区理事長
- ・本会仙北支部運営委員
- ・大仙市農業委員
- ・元本会監事(H16.4.1～H21.3.31)

第135回秋田県種苗交換会・参考展示

「農業農村整備フェア」を開催!!



秋田県農業の祭典「秋田県種苗交換会」が今年度は能代市を会場に10月31日～11月6日まで開催された。期間中、本会は東北農政局(西奥羽土地改良調査管理事務所、平鹿平野農業水利事業所、田沢二期農業水利事業所)、秋田県(農地整備課、農山村振興課、山本地域振興局農村整備課)、秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会等の関係団体と協力・連携し、共催行事として「農業農村整備フェア」を開催した。

農業農村整備フェアは、一般の方々を中心に、農業・農村が持つ魅力や大切さを知ってもらい、併せて農業農村整備事業の啓発普及並びに円滑な推進を行うための広報活動と位置付け、関係団体に呼びかけ長期に渡り継続開催されている。

期間中、約8,000人の来場者が訪れましたが、展示ブース内では、関係団体が一丸となって、各種農業農村整備事業に関連したパネルや「グリーン・ツーリズムの取組」、「農業農村整備のはたらき」、「耕作放棄地を活用した『あきた体験農園』の活動状況」等に関するパネル展示のほか、毎年好評の「顔写真入り農村風景カレンダーの作成」や「農業農村に関するアンケート・相談コーナー」などを実施し、展示ブースを一体的に活用した広報活動を行うことができた。



2012語り部交流会inあきた

～農業農村から学ぶ自然との共生の精神(こころ)～



10月20日(土)、にかほ市平沢の「にかほ市総合福祉交流センター(スマイル)」で、「2012語り部交流会inあきた」(主催:秋田県、共催:あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議、協力:平野啓子、後援:農林水産省東北農政局、にかほ市、にかほ市教育委員会、水土里ネット秋田)が開催され、県内外から約260名の参加があった。

この語り部交流会は、身近にある農業や農村に関する歴史や文化の継承を語り、伝えることで、昔から受け継がれてきた農村に宿る共生の精神を再認識し、それを将来につなげていこうというもので、平野啓子さん(語り部・かたりすと)と農林水産省、秋田県の三者の協同により、昨年から全国に先駆けて実施されている。

今回は、「農業農村から学ぶ自然との共生の精神」をテーマに、鳥海山麓一帯における農地や疏水の歴史、その開拓に尽力した郷土の先人の足跡、農村伝統文化などを見つめ直すことにより、その共生の精神を地域活力の向上や農村振興につなげていくことができないかを考えるという趣旨のもとに行われた。

交流会では、菅原県山本地域振興局長による講演や、横山にかほ市長らによる語りフォーラムの開催、地元の伝統芸能「小滝番楽」が披露されたほか、平野啓子さんの語りには、地元の平沢小学校の児童5名が登場し「齊藤宇一郎翁」の紙芝居と一緒に朗読するなど、地域一体となったの交流が行われた。





# 会員だより

## 土地改良区事務所移転のお知らせ

次の本会会員が、名称変更及び事務所移転となりました。

【旧名称・住所】

大仙市清水南土地改良区  
大仙市清水字上大蔵 126-16



【新名称・住所】(H24. 11. 26)

大仙市中仙南土地改良区  
〒014-0203  
大仙市北長野字茶畑 141(大仙市中仙支所内)  
TEL&FAX 0187-56-3814

## 新理事長就任のお知らせ

次の方が新たに理事長に就任されました。  
○ニツ井白神土地改良区(H24. 10. 18)  
理事長 幸坂 登

## 支部長職務代理者のお知らせ

次の方が、山本支部の支部長職務代理者となりました。  
○山本支部長職務代理者  
副支部長 田中 長

## 人事異動(東北農政局)のお知らせ

次の方が、12月17日付けで東北農政局次長に就任されました。  
○農林水産省東北農政局次長  
鳩山 正仁 (農村振興局総務課長)

## 連合会日誌

10月31日	第135回秋田県種苗交換会「NNフェア」(～11月6日)	能代市「総合体育館」
11月9日	本会第4回監事会	本会「第1会議室」
11月29日	全国土地改良施設管理事業推進協議会第16回通常総会	東京都
12月6日	平成24年度農地・水保全管理支払交付金第3回担当者会議	秋田市
12月6日	大館地区土地改良区連絡協議会役員合同勉強会	大館市
12月13日	第3回会長・副会長会議	本会「役員室」
12月20日	第3回理事会・第5回監事会	本会「第1会議室」
12月25日	秋田県農業再生協議会臨時総会	秋田市
1月9日	平成24年度土地改良区合併推進リーダー育成研修会(東京会場)(～10日)	東京都
..... 今後の行事予定 .....		
1月17日	都道府県水土里ネット事務責任者会議	東京都
1月17日	農業農村整備の集い	東京都「砂防会館別館」
1月24日	農地・水保全管理支払交付金平成24年度抽出検査(～25日)	本会「第1会議室」
1月25日	秋田県土地改良事業団体職員会役員会	秋田市
1月31日	平成24年度秋田県公共事業における環境配慮優良事例発表会	秋田市「県庁第2庁舎」
2月1日	平成24年度秋田県農林水産ビジネス推進フォーラム	秋田市
2月8日	秋田県農地集団化推進協議会平成24年度第2回理事会・研修会	秋田市
2月23日	平成24年度中山間ふるさと・水と土フォーラム	秋田市「エリアなかいち」
3月15日	水土里ネット秋田第55回通常総会	秋田市「市文化会館」

## 編集後記

◆昨年は大変お世話になりました。お正月周りのものには、意外と由来がこめられているものがあります。たとえば、お正月の昆布なら「よろこ(ん)ぶ」、煮豆は「まめまめしく働く」などなど。干支にもそういう由来のような縁起話のようなものはあり、「巳年」干支の由来は、【蛇】執念深いと言われる蛇ですが恩も忘れず、助けてくれた人には、恩返しをを行うと言われています。昨年の世相を表す漢字は「金」。ロンドンオリンピックのメダルラッシュ、山中伸弥氏ノーベル賞受賞、932年ぶりに観測された金環日食、そして世界一の高さを誇る自立式電波塔、東京スカイツリーの開業などが選ばれた主な理由だそうです。未だ、震災で行方不明の方や亡くなられた方々のことを考えますと喜び溢れて新年を迎える事はできませんが、「災い転じて福となす」の言葉のとおり、新しい年が良い年であることを祈るばかりです。

◆広報・渉外班

## 農業用施設賠償責任保険・団体傷害保険制度のご案内

みなさまが、安心して『施設維持および管理活動』に従事していただくための平成25年度団体保険制度をご案内致します。

# 安心

安心の補償

●**農業用施設賠償責任保険 <相手への賠償>**

- ◆土地改良区等が所有・使用・管理する施設等が原因となる第三者への賠償事故による損害を補償します。
  - ◆土地改良区等が実施する草刈り・清掃などの施設維持・管理活動中に作業員のミスによる第三者への賠償事故による損害を補償します。
- ※「賠償事故」とは、法律上の損害賠償責任が発生した事故のこと。

●**団体傷害保険 <ご本人の補償>**

- ◆土地改良区等が実施する草刈り・清掃・施設の保守管理などの施設維持・管理活動中に偶然な事故でケガをした場合、保険金をお支払いします。
- ※他の保険等とは関係なくお支払いします。健康保険、生命保険、政府労災など他の保険や、加害者から受ける損害賠償金などとは関係なくお支払いします。

# 納得

納得のプラン

●**納得その1**

- ◆農業用施設賠償責任保険の保険料の計算は簡単！延長距離に720円を掛けるだけ。  
\*最低保険料30,000円(延長距離が少ない場合は、30,000円となります。)

●**納得その2**

- ◆団体傷害保険で、土地改良区の夫役等として、組合員による草刈・泥上げ等に従事した人の傷害保険はA～C、期間雇用の方向けの傷害保険はD～F、役員・職員の方向けにはG～Lの豊富なコースの中からお選びいただけます。

●**納得その3**

- ◆傷害保険は、団体のスケールメリットとして割引15%を適用しています。

【問合せ先】 総務企画部 広報・渉外班 TEL.018-888-2742  
引受保険会社：三井住友海上 取扱幹事代理店：東北リスクマネジメント  
【更新手続き】 2月末日までとなっておりますので、後日、加入依頼書を送付いたします。

※上記は、農業用施設賠償責任保険と団体傷害保険の特徴を説明したものです。詳しくは商品パンフレットをご覧ください。  
また、農業用施設賠償責任保険の保険料は、5年間の損害率と単年度の損害率の両方で考慮しており、毎年、損害率等により料率の見直しを実施されております。平成25年度は20円の値上がりで、720円となりますことをご了承願います。

# 謹 賀 新 年

平成25年

## 秋田県土地改良事業団体連合会（水土里ネット秋田）

会 長	高 貝 久 遠	理 事	田 口 信 一
副 会 長	工 藤 久 兵 衛	〃	齊 藤 滋 宣
〃	三 澤 敏 行	〃	正 木 正 一
専務理事	黒 子 高 夫	〃	柴 田 康 二 郎
常務理事	水 戸 憲 光	総括監事	畠 山 清 俊
理 事	横 山 忠 長	監 事	鈴 木 順 平
〃	由 利 傳	〃	藤 井 弘 道
〃	松 田 知 己		外 職 員 一 同

※本印刷用紙は、大昭和板紙秋田工場で生産された「地産地消製品」を使用しております。